

『SS3』 Ver. 1. 1. 1. 21 に対するリンクプログラムの動作一覧

非充腹材を入力した『SS3』データ (Ver. 1. 1. 1. 21 以上) をリンクプログラムで使用したときの動作は以下のとおりです。

ソフト	バージョン	動作
US2	Ver. 6. 43 以下	[データの転送と消去]で非充腹材を入力した『SS3』データを転送したとき、『SS3』の[7.6 山形鋼][7.7 格子材][7.8 ラチス材]は転送されません。 『US2』の[5. 部材形状登録 5.1 梁 5.2 柱]の鉄骨データは0となるため、鉄骨データを入力し直す必要があります。
RC 診断 2001	Ver. 2. 33 以下	解析中にプログラムが不正終了します。
耐震診断	Ver. 4. 82 以下	解析中にプログラムが不正終了したり、解析が流れたとしても不正な結果となったりします。
積算	Ver. 2. 31 以下	解析中にエラーメッセージが出力され解析が中断されます。 「配筋等登録データー柱において、未登録の鋼材 No. #####を使用しています。」 「配筋等登録データー柱において、未登録の鋼材 No. #####を使用しています。」
Op.耐震壁	—	[自動設計]で[計算と出力]を行うとエラーによりプログラムが終了します。 また、[対話設計]において、[自動設計データ読込]を行うとエラーによりプログラムが終了します。
Op.柱脚	—	データを開く際にエラーによりプログラムが終了します。
AD1-リスト	—	鉄骨が作図されません。また、鉄骨の欄は鉄骨寸法が表示されなかったり、不正な値が表示されたりします。
AD1-伏図	—	不正な図が描画されたり、保護エラーが発生したりします。
AD1-軸組図	—	柱、梁の鉄骨が正しく描画されません。